

看取りのパンフレットの有効活用  
を目指して  
—事例を通して有効性を考える—

なでしこ看護ステーション

齊藤 榊原

# 1. 研究の背景

- ◎ 終末期を在宅で過ごし、最期を自宅で迎えた方が増えている
- ◎ 家族は死が差し迫った身体的変化を目の前にすることで「このまま在宅でよいのだろうか」と動揺したり不安に思うことがある
- ◎ 起こりうる身体的変化について口頭での説明を行ってはきたが、個人差があり受け止める家族によっても様々である

看取りのパンフレットを導入することで家族への説明が統一でき、残された時間を穏やかに過ごすことができるのではないかと考えた

## 2. 研究の目的

- 在宅での看取りにパンフレットを使用することでの効果検証

# 3. 方法

## 【対象者】

- ① 医師から余命宣告の説明をされ、本人が在宅で最期まで過ごすことを希望していることを支えている家族
- ② 当施設看護職員

## 【研究内容】

1. パンフレットの選択
2. パンフレット使用方法について検討
3. 終末期を過ごす家族にパンフレットを活用
4. パンフレットを活用した評価

## 【倫理的配慮】

- 個人が特定されないよう配慮する

## 4. 結果

### 1. 使用するパンフレットの選択



## 2. パンフレット使用方法について共有する

### 1) 渡し方

対象者は医師から余命宣告の説明を受け、本人が在宅で最期まで過ごすことを希望していることを支えている家族を対象にパンフレットを渡した

①研究担当者2名が主となりパンフレットを渡した

②ご家族へは本人から離れた場所もしくは別室にてパンフレットを渡し説明

③ご家族の不安を増強させないように以下の説明

「主治医より余命についての話をされ、最期までご自宅で過ごしたいとの思いがあり、ご家族も自宅で看取ることを決められた方みなさまにお渡ししているものです」

## 2) パンフレット 3部の活用法

基本的には3部渡すようにするが、人によっては「大切な人との別れの準備」1部のみ渡した

3) パンフレットを活用したのは5事例でそのうち3事例においてはグリーンケアの際にパンフレットの評価を受けた(表1) 3事例ともパンフレットについては目を通して「良かった」という意見を頂いた。

\*パンフレット 1 大切な人との別れの準備

2 大切な人の旅立ちの時

3 住み慣れたご自宅でご家族を看取られる方へ

# 表1 パンフレットを活用した事例一覧

	年齢	病名	パンフレットの種類	グリーフケア (お悔やみ訪問)	パンフレットの評価
A氏 女性	50歳代	乳癌多発転移	1. 2	×	
B氏 女性	70歳代	膵臓癌	1	○	いい本ですね
C氏 女性	90歳代	アテローム血栓性 脳梗塞	1. 2. 3	○	良かったですよ
D氏 男性	80歳代	食道癌	1. 2. 3	○	良かった
E氏 男性	80歳代	直腸癌肝転移 肺転移	1. 2. 3	×	

# 事例紹介

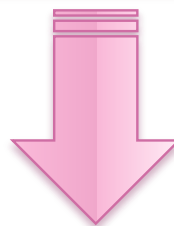


B氏 70歳代 女性  
膵臓がん ステージ4  
次女夫婦と同居

抗がん剤治療中  
間質性肺炎



緩和ケア



1回目  
次女のストレス  
増強

緩和ケア病棟へ  
レスパイト入院  
計2回

自宅へ  
訪問看護開始



2回目  
本人の次女へ  
の気遣い

3人姉妹で協力し在宅で看取る  
覚悟を決め、自宅へ

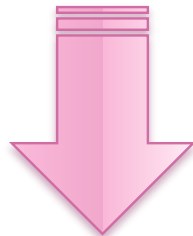
# 事例の分析

- パンフレットの説明開始からグリーンケアまでの家族の様子及び、スタッフ間で行ったカンファレンスから分析をし表にまとめた。

資料参照

## 5. 考察①

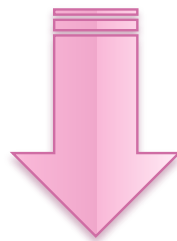
熊崎らは、必要とする情報源である看取りのパンフレットが手元にあることで、医療従事者が身近にいない状況下でも正しい情報を何度も確認し、知識を強化して不安を軽減することが可能となると述べている



姉妹が介護する中で、3人でパンフレットを何度か見直すことが出来た  
医師や看護師がいない間も正しい情報を何度も確認することができたことによって、起こりうる状況を理解し不安の緩和につながったのではないかと考える

## 5. 考察②

仕立らは、看取りのパンフレットを読み直すこと、患者の状態について家族と積極的に話をすることで家族は患者の状態を理解し死を受け止める準備が出来、亡くなるまでの時間を大切に過ごす事が出来ると述べている



次女が母に対し感謝の言葉を述べる事ができたことや、呼吸が止まりそうな時に動揺することなく静かに最期の時を見守ることができたこともパンフレットの有効性があったといえる

## 6. まとめ

- ・看取りのパンフレットは、常に医療者が傍らにいないことのできない在宅では、正しい情報を何度も確認することができ、家族の不安の緩和や死を迎える心の準備につながる
- ・穏やかに自宅で看取ることをできた家族には、家族関係の修復や本人の希望を叶えることができたというやり遂げた気持ちをもてる

## 7. おわりに

- 今後の課題として、パンフレットを渡す際やグリーンケアを研究担当者2名でおこなったため、スタッフ間で共有し、さらに看取りのパンフレットを有効活用していけるようにしたい

# 参考・引用文献

- ◎ 1) 熊谷有記、田淵康子.終末期在宅療養を支える看取りのパンフレット使用の実態と課題 Palliative Care Research 2017.12(2):222-28
- ◎ 2) 山本亮ら.看取りの時期が近付いた患者家族への説明に用いる「看取りのパンフレット」の有用性：他施設研究 Palliative Care Research 2012.7(2)192-201
- ◎ 3) 山田優子、邑本奈穂子、伊勢栄、がん終末期に「看取りのパンフレット」を導入した家族ケア4事例の効果検証。日看会論集：成人看Ⅰ. 2013;43:175-1778
- ◎ 4) 北畑美津子、古林典子、藤本久美、他。在宅終末期癌患者の主介護者の不安に対する「看取りのパンフレット」の効果：遺族を対象とした調査。日看会論集：地域看。2012;42:135-8.
- ◎ 5) 仕立多磨美、津田みゆき、山本恵、他：看取りのパンフレットを用いた家族への関り、山口大学病院内看護研究発表会集録、2003、平成15年度、P1-6,2003.

# 謝 辞

ご協力いただきました皆様  
ありがとうございました

